2023年人類働態学会夏季研究会に参加して

人生が変わった２日間
この研修でしか得られなかったもの

松木 敬斗，眞矢 大志朗，丸田 幸奈

はじめに

今回，私たちが人類働態学会夏季研究会に参加したきっかけは，先生から配られた１枚のプリントでした。「国立競技場に集合！リレーフェスティバルを最高の大会に改善しよう！」と書かれたプリントはとても興味深く，どんなことをするんだろうと気になっていました。それでも，「１年生だし……東京だし……」そんなことを考えて，一歩踏み出せませんでした。しかし，親や友達に相談したところ「行った方が絶対に今後のためになる」と後押しされ，「今回を逃したらこんな機会はない」と思い立ち，この夏季研究会に飛び込みました。

他者視点と積極性を学んだ改善活動

私たちが参加した夏季研究会はリレーフェスティバル（以下，リレフェス）をもっと楽しく，安全で，快適なイベントに改善する活動で，一日目はリレフェスのフィールドワーク，２日目はフィールドワークを基にしたグループワークの２日間の研究会でした。

一日目は各班に分かれてリレフェス観戦を楽しみながら，会場の国立競技場の中を回り，イベント運営の工夫や良好事例を調査しました。その後，普段は見学できないトップアスリートの控え室やスタッフルームの見学をしました。愛媛でスポーツを学んでいる私たちにとっては見学すらも，とても価値ある体験となりました。調査では，「コミュニケーション」をキーワードに班員と一緒に会場を注意深く見て回りました。すると，観客と選手がコミュニケーションを深めるための工夫やブースがたくさん見つかりました。例えば，競技場に入るとすぐマップがあり，選手待機場所，招集場所が細かく記載されていて，初めて競技場に訪れた人でもすぐ分かる工夫がされていました。さらに，選手に向けての応援メッセージを書くブースや，実際のスタートブロックを用意し，スタートを体験できるようにしたブースが設けられており，イベントを観戦するだけでなく応援や体験を通してイベントへの参加ができるようになっていました。

今回のフィールドワークでスポーツ会場にはさまざまなアイデアが散りばめられていると強く感じました。今まではスポーツ大会の会場に行っても全てが当たり前のことだと思い，見落としていましたが，今回は，なぜここに線が書かれているの？　この線が書かれている場合と書かれていない場合の違いは？　このブースは誰のためにあるの？　といった視点を持つことができてとても新鮮でした。すべて「観客がよりわかりやすいように」という視点であり，他者視点を持つ必要性を感じました（写真１）。

２日目の午前中は，前日のフィールドワークの班でグループワークを行い，リレフェス主催者の日本陸上競技連盟へ改善案を提案しました（写真２）。午後からは安全衛生マネジメント研修を行いました。午前中のグループワーク前，周りの班員は大学３年生以上の先輩達，さらに

まつぎ けいと
まや だいしろう
まるた ゆきな
聖カタリナ大学

写真１　フィールドから見る観客席を撮影する様子

写真２　日本陸連へ改善案提案の様子

は，大学院生の方もいて「本当に話ができるのかな……」と不安ばかりが頭をよぎっていました。しかし，先輩方は私達が意見しやすいような雰囲気づくりをしてくれて，いつの間にか意見を言うことが楽しくなっていました。そして，日本陸上競技連盟の方へグループワークの内容を発表する時がやってきました。先輩方の「フォローするから発表してごらん」という言葉を信じ，マイクを握りました。これまでの人生で初めて100名の前で話をしました。正直なところ，手足が震えていたことしか覚えていません(笑)。それでも，班員の皆さんが「よくやったね！　すごいよ！」と言ってくれたことが,「自分もできるんだ」という自信になりました。さらには，発表が表彰もされて，もっと自信が深まりました。

午後からの安全衛生マネジメント研修では,「安全」をキーワードに普段の大学での学びとは異なる視点を学ぶことができました。例えば，危険はさまざまな視点で見るべきだということです。私たちは階段を見た時,「落下」や「滑倒」という危険はすぐにわかります。しかし，視覚障害者の目線から階段を見た時は，そもそも階段を確認することができないという認知の部分から危険を考えなければなりません。このように一つの視点だけで見てしまうと特定の人に対する危険性しか把握することができませんが，さまざまな目線から物事を見ることで多くの危険性を浮き彫りにすることができます。だから，常に物事を多くの視点から見ていくクセをつけることで安全管理や環境改善につながると思いました。

今回のグループワークを通して学んだことは，積極的に行動するということです。「年齢が離れているから遠慮しちゃう」,「自分の発言は間違っているかも」と思っていても，勇気を出して発言してみると，意外に自分の意見に共感してくれる人が多いことに気が付きました。しかし，班の先輩方がとても優しく，話になじめるよう雰囲気を明るくしてくれたことで積極的になれたのだと思います。そのお陰で，意見交換がとても楽しいと思うようになりました。そして，その姿勢は，私達が，先輩になったときのモデルとなっています。環境を整えることで変わるのは安全だけでなく，人も一緒だと強く思いました（図１）。

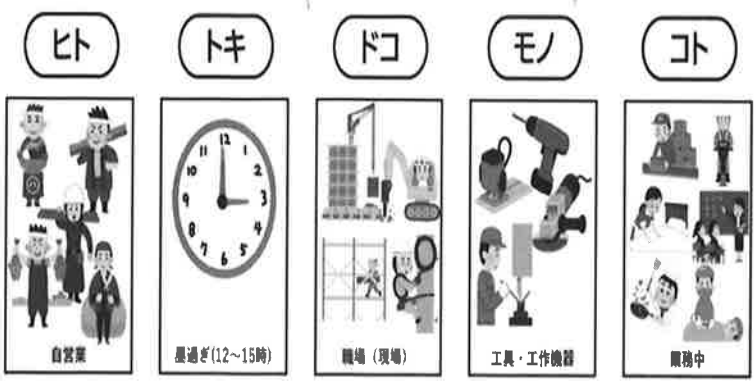

図１　研修で使用したRISKYツールの一部

憧れの人ばかりの懇親会

懇親会では，他大学の先生方や学生とお話をする機会が多くありました。もともと懇親会への参加は見送っていましたが，先生に「懇親会こそ真の学びの場」と言われ，参加を決めました。まさにその言葉通りで，今では来年も参加したいと思っています。

懇親会はあっという間に時間が過ぎていました。そう思ったのも周りの方々が私たちに対しても，話しやすい環境を作ってくれたからです。そのお陰で自分の思っていることや考え方をどんどん伝えることができました。さらに，皆さんは自分の考えややりたいことに対するアドバイスもしてくれました。そのアドバイスの中には，「自分も学生の時はそうだったよ」，「そういう失敗もあるよね」といった失敗談もあり，「自分だけじゃない。これから頑張って行こう」と前向きになれるアドバイスもありました。そのような失敗談を年齢に関係なく話せる人はカッコいいなと思いました。そして，自分たちが年齢を重ねた時，同じようなことができる人になりたいと強く感じた懇親会でした（写真3）。

写真3　懇親会の自己紹介でマイクを握る
（左から松木敬人，眞矢大志朗，丸田幸奈）

おわりに

この2日間，私たちは「積極的に行動する」をテーマに動き続けました。そして，これまでの人生で過ごしたことのない2日間を過ごすことができました。この研究会に参加していなければ，バイトしてゆっくり過ごすだけの2日間だったと思います。それをほんの少し勇気を出して行動してみることで，同じ2日間でも人生や考え方が大きく変わる最高の2日間になることを体験しました。

そして，人は良質な情報に出会ったときに人生が大きく変わると強く思いました。来年の夏季研究会ではもっと多くの同級生を誘い，みんなで参加して，学びの仲間を増やしていきたいです。

今回の夏季研究会で，ご指導くださった先生方，誠にありがとうございました。